

おかねをめぐる物語—江戸の文芸とユーモア—



開催期間：2018年4月17日（火）～7月8日（日）

草双紙 目録

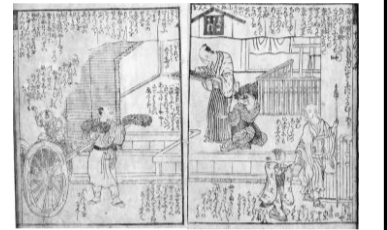
1 江戸のマンガができるまで —江戸時代の出版事情—

No.	作品名	出版年	作者/画工	体裁	版元	資料番号	解説
1	合巻『宝船黄金梳』 (たからぶねこがねのほぼしら)	1818(文政元)年	東里山人 /勝川春扇	1巻1冊5丁 (上巻に相当)	泉市板	904487	中央上にいる小判の顔をした版元が、作者・筆耕・画工(絵師)・版木師・版摺を統括しています。
2	黄表紙『江戸春一夜千両』 (えどのはるいちやせんりょう)	1786(天明6)年	山東京伝 /北尾政演 (山東京伝)	3巻合綴1冊15丁	蔦屋板	904492	挿絵を手がけている「まさのぶ」(北尾政演)は、この本の作者である山東京伝の別名です。山東京伝は、浮世絵師でもあり、他の作者による作品の挿絵も手がけていました。



2 擬人化されたお金たち —お金が主役のものがたり—

No.	作品名	出版年	作者/画工	体裁	版元	資料番号	物語のあらすじ
3	黄表紙『再会親子銭独楽』 (めぐりあうおやこのぜにごま)	1793(寛政5)年	唐来参和 /北尾政美	3巻合綴1冊15丁	蔦屋板	904503	世の中をめぐる銭の親子の別れと再会を描いています。母親と子の姉弟が離ればなれになり、再び母と出会う物語『さんせう大夫』を元にしています。
4	黄表紙『再会親子銭独楽』 (めぐりあうおやこのぜにごま)	1793(寛政5)年	唐来参和 /北尾政美	3巻合綴1冊15丁 (半紙本に改装)	蔦屋板	904504	
5	合巻『宝船黄金梳』 (たからぶねこがねのほぼしら)	1818(文政元)年	東里山人 /勝川春扇	2巻合綴1冊10丁 (中・下巻に相当)	泉市板	904494	「足が速いお金(飛脚の金)」「心を迷わすお金」「仏門に入るお金」「人の命を取るお金」「子を産んで増えるお金」など、さまざまな性格のお金にまつわる物語が描かれています。
6	黄表紙『金銀太平記』 (きんぎんたいへいき)	1791(寛政3)年	荒金土生 /桜川文橋	2巻合綴1冊10丁	秩父屋板	904498	金貨と銀貨との間に確執が生まれ、銭貨は銀貨に加勢して戦いが起きる様子が描かれています。最後は、砂金の仲立ちで戦いは終わります。



3 お金の精、あらわる！ —いつもそばにいるお金たち—

No.	作品名	出版年	作者/画工	体裁	版元	資料番号	物語のあらすじ
7	黄表紙『新鑄小判耳たぶ』 (しんぶきこぼんのみみたぶ)	1795(寛政7)年	十返舎一九	3巻合綴1冊14丁 (第12丁落丁)	蔦屋板	904499	小判を擬人化して、人間と「お金」の関わりを説明した作品です。「身につくお金」「へそくりのお金」「逃げるお金」のように、現在読んでも興味深い性格のお金が登場します。
8	黄表紙『新鑄小判耳たぶ』 (しんぶきこぼんのみみたぶ)	1795(寛政7)年	十返舎一九	3巻合綴1冊15丁	蔦屋板	904497	
9	黄表紙『銭鑑貨写画』 (ぜにかがみたからのうつしえ)	1800(寛政12)年	曲亭馬琴 /北尾重政	3巻合綴1冊16丁 (冒頭に「曲亭稗史」 1丁を合綴)	鶴屋板	904477	主人公がお金の精に誘われて人間の欲と銭の世界をのぞき見た後、まじめな人になる物語です。酔いつぶれる程に酒を飲んで浪費する「酔楽通宝」(よいらくつうほう)等、ユニークなお金たちが色々登場します。
10	黄表紙『銭鑑貨写画』 (ぜにかがみたからのうつしえ)	1800(寛政12)年	曲亭馬琴 /北尾重政	3巻合綴1冊15丁	鶴屋板	904493	



4 お金たちがいうことには… —お金が語るありがたい話—

No.	作品名	出版年	作者/画工	体裁	版元	資料番号	物語のあらすじ
11	黄表紙『平仮名銭神問答』 (ひらがなせんじんもんど)	1800(寛政12)年	山東京伝 /歌川豊国	3巻合綴1冊15丁	蔦屋板	904476	親から譲り受けた財産を湯水のごとく使う主人公が、「お金」の神や精たちに導かれてお金の尊さを知り、一文銭をもらって目が覚めるという内容です。その後、主人公は改心して、親の10倍もの財産を築きました。
12	黄表紙『平仮名銭神問答』 (ひらがなせんじんもんど)	1800(寛政12)年	山東京伝 /歌川豊国	3巻合綴1冊15丁	蔦屋板	904475	
13	黄表紙『平仮名銭神問答』 (ひらがなせんじんもんど)	1800(寛政12)年	山東京伝 /歌川豊国	3巻合綴1冊15丁	蔦屋板	904474	
14	黄表紙『替銭通用双六』 (かわりぜにつうようすごろく)	1796(寛政8)年	十返舎一九	3巻合綴1冊15丁	岩戸屋板	904500	律儀な正すけが隣家の高利貸し邪九郎から銭を借りましたが、利子が増えて家財すべてを取り上げられました。正すけは、神仏からお金を無駄にしない教えを受けてお金を増やしていきました。一方、邪九郎は無理に金儲けをした報いで、銭から逃げられて落ちぶれていきました。
15	黄表紙『替銭通用双六』 (かわりぜにつうようすごろく)	1796(寛政8)年	十返舎一九	3巻合綴1冊15丁	岩戸屋板	904496	
16	合巻『運輝長者之万灯』 (うんはかがやくちょうじゃのまんどう)	1812(文化9)年	関亭伝笑 /歌川国長	2巻合綴1冊10丁	西村屋 与八板	904486	律儀な善太は、母の病気のために高利貸から銭を借り、毎日高い利息を取り立てられました。善太を見ていた太陽や星の配慮で幸運に恵まれ、善太は質屋の一人娘の婿養子になりました。善太(徳助と改名)は驕ることなく、働き者であったことから質屋は繁盛しました。

